

## グループホーム スマイル 外部評価報告書

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271400184		
法人名	スマイル ケア(有)		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	千葉県香取市佐原イ1689-2		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 4 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 1 月 16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和 4 年	12月	22 日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

企業理念である「ゆっくり 楽しく 一緒に」実践するべく、入居者様第一とし 入居者様がその人らしい生活が送れるよう一人一人に向き合い 職員は支援の中で常に「なぜ」という気持ちを持ち、その人の気持ちに向き合い一緒に考えられるように心がけている。また職員の年齢層も若い年代から やや高齢年代まで様々であり、ホームが1つの大家族のようになり 入居者様にとっては孫やひ孫 子供世代と一緒にお互い助け合って生活する事を楽しみ、生活できる空間になっている。入居者様が若い職員へ昔の事を伝え、教えていく。入居者様の役割や意欲、そこから笑顔や笑い声が絶えない施設づくりを目指している。又コロナ禍により様々な制限があるがそのなかでより良い生活を送る大切さを考えられる機会と捉え、ホーム全体で今まで以上に工夫を考え実践することにも力を入れていく。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

施設の良い点その①「改善提案書」に職員全員で些細な気付きを共有する為の仕組みとして取り入れ一丸となって理念の「ゆっくり・楽しく・一緒に」の実践に向け、同じ方向性を持った支援が行なわれている事。その②職員同士や管理者と職員間のコミュニケーションが大切との共通認識があり、どんな事にも話し合いと相談で解決する職場文化が醸成されていて職員は自信とモチベーションを持ち、明るく・元気に仕事に前向きに取り組んでいて明るい雰囲気職場文化がある事である。その③職員の合意の下ケアプランが作成され、その目標とモニタリングとしての「申し送り」で職員は確認しながら支援が行なわれていて、少しずつでも運動能力向上などの課題に向けた支援がぶれないで行なわれている事である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所前の玄関やフロアに掲示し職員の目に入りやすいようにしている。理念に基づいた支援が行えるよう、随時、個々に指導し実践につながるよう努めている	利用者からの気付きを「改善提案書」に記載し、職員同士が話し合いの中からより本人に寄り添った事柄は何かを探り、支援に活かす事で理念の「ゆっくり・楽しく・一緒に」の実践に向けて、施設一丸となって同じ目線・方向で支援している。	「改善提案書」の仕組みの活用が未だ十分に浸透していない点を踏まえ、些細な気付きでも記入する事を習慣つけた上で情報を共有し、話し合いの中からより本人に寄り添った支援に繋げる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大以前は近隣保育園児の定期訪問や小学生による職場体験の受け入れをおこなっていたが現在はコロナ感染予防対策として行っていない。今年は近隣保育園より園児と先生が来訪していただき、玄関先でお花を入居者様へいただく機会があった	散歩の時の近所様とご挨拶や保育園児と先生が来訪し花をプレゼントされる又夏祭りには庭先で山車が止まり利用者はそれを見学して楽しむなど地域の方々に施設を理解し、盛り上げるような協力を頂いている関係がコロナ禍でも継続されている。職場体験など今は出来ない事も落ち着いたら継続する意欲がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症よろず相談の受付窓口として近隣の皆さまからの問い合わせ対応をおこなっている。キャラバンメイト在職中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ感染予防対策により意見を聞く話し合いの場を設ける事が出来ない。(書面にて開催 今後社会情勢の変化に応じて開催の検討をおこなう)	対面での会議開催が困難なコロナ禍では運営推進委員の方やご家族へ書類で議題を提示しご意見を頂き改善に繋げる工夫をして推進会議として年6回開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市町村担当者と連絡をとり協力関係構築を図っている	事故報告・ヒヤリハット・外部評価結果などを報告・提出する等施設からの発信を積極的に行ない、疑問・質問がある時は直接電話で聞く等連携が取れている。ワクチン接種・ノロ対策などはメールで連絡があり適切に対応して行政との関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に対して身体拘束防止の勉強会を随時 コロナ感染対策により文書にて実施している。玄関の施錠は行っているがホーム構造上によるもの ホーム外の交通量に配慮し、入居者様への危険回避対策として行っている。入居者様の希望にて随時開錠をしている	身体拘束は行なわないケアに取り組んでいる。「ちょっと待って」等のことばの拘束は「倫理と虐待」として会議で取り上げ勉強会として行なっている。参加出来なかった職員には議事録を回覧している。家族へもスピーチロックの内容と意味を説明し理解に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で理解、取り組みが出来るよう施設内勉強会(コロナ感染予防対策の為文書にて)を行い、職員のスピーチロックなど、とっさに言ってしまう言葉などにも意識が出来るよう都度繰り返し、メンタル面にも配慮しながら個々にも指導を行い、虐待防止に勤めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度については職員の施設内勉強会にて随時学べる場を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約前に不安なことや疑問点などがなく安心して生活がおくれるよう、十分な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より意見や相談がしやすい環境作りに努めている。意見や要望を受けた際は、必要に応じて代表者に報告・相談を行い、職員へ伝え質の向上につながるよう努めている	家族訪問時にはこちらからの声かけで意見・要望が出やすい会話を心掛けている。一例としてヒヤリハットの例で転倒の危険があった話をしたところ靴の変更や声掛けの大切さ等の意見を頂き、職員と共有し改善に繋げるなど些細な事柄にも改善を工夫し利用者の安全な生活改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ感染拡大前は職員の全体会議を行っていたが、コロナウイルス感染予防対策として現在は中止。今は個々がいつでも業務改善案を提出出来るようにして意見を反映出来るよう努めている。また日頃からコミュニケーションを取り、伝えやすい環境作りに努めている。	管理者は職員とのコミュニケーションが大切との認識を持ち、希望・要望・提案など何でも話し合いで解決する姿勢で取り組んでいる。一例としてダンボール廃棄作業についても、皆の意見を集約した上で廃棄チェック表を作成し偏らないよう配慮した仕組み作りをする等、職員は意見・提案等何でも発言し易い雰囲気職場文化として醸成されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は必要に応じて面談を行っている。必要があれば代表者は報告・相談を行い給与など見直しを行っている。やりがいや向上心につながるよう勤務中などもコミュニケーションを図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などオンライン等で参加や必要に応じて対面の研修なども実施。現在は実務者研修受講中。その後初任者研修受講予定者1名		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は関係団体の役職を担っておりネットワークづくりに貢献している。相互訪問などはコロナ感染予防対策としておこなってはいない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご本人の希望や不安を傾聴するほか、ご家族や各関係機関へも相談をし、なるべくこれまでの生活状況を把握し安心の環境の下で支援ができるように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご本人の生活歴や状況を確認するとともにご家族の希望や不安を伺い、両者が安心できる内容の支援ができるように協力を得ている。またこの段階でホームとして出来る事、出来ないことを伝え理解していただき安心してサービス提供が行えるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の状況に応じて「何を一番必要としているか」を見極め、必要に応じた他サービス利用も含めた総合的な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意向や出来る事を活かせるよう、洗濯や食事準備、後かたづけ シーツ交換等役割を持ちながら生活を送れるよう、又互いに支え合う関係作りを大切に支援を心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話にてご家族様と連絡をとりあったり、来設時にお話しをしている。日々の様子など写真をつけたお手紙を請求書と一緒に郵送しご本人とご家族と情報の共有をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会や外出に制限があるが、電話や手紙などのやりとりを通じてこれまでの関係が途切れないよう また日常の会話のなかでなじみの場所やなどのお話しをして、ご本人にも安心していただけるように支援に努めている	WEB面会の仕組みを作ったが残念ながら一家族のみに終わっている現状から窓越し面会を毎月のお知らせで紹介し家族との絆の継続を支援している。日常生活の写真を送って家族に安心を届けている。佐原祭りの山車が施設前で止まり、祭りの雰囲気を利用者は感じ、地域で生活している事を感じられる事も馴染み関係の継続となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係を把握した上でフロアーの席の配置や入居者様が一緒に活動を行えるよう、朝礼や申し送りを活用して職員とともに他入居者様の関わり合いについて検討している。互いに感謝の言葉かけができるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設へ移行の為、退去されたご家族から経過やその後の様子など電話にて相談などを受ける事がある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の希望や意向を伺う事また上手く言葉に出来ない方に関しては日頃の言動や行動を観察し、記録し申し送りなどで情報収集をしてケアプランにて管理者、ケアマネージャー、職員ともに情報を共有して支援に繋げている。随時、居室担当者や他職員とともに検討を行っている	利用者職員との会話を何気ない話の中から情報を得て、家族にも確認をし、又利用者の変化時には業務日誌に記録し申し送りをして情報共有している。利用者のニーズを聞き取り、出来る出来ない事の方に応じて、支援に活かして、ニーズと出来るサービスの差を少なくする工夫をして取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談にてご家族、ケアマネ 入居前の利用事業所などから情報収集し、入居してからも「本人らしい」生活の継続ができるよう検討を行うと同時に引き続きご本人の言葉や行動や様子を確認して支援に繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録をipadにて行い職員がいつでも情報収集ができるようにしている。日々の様子など申し送りや朝礼などで情報共有を行い把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の課題がある場合には必要に応じてご家族、主治医、各関係機関と話し合った意見を踏まえ、職員とともに検討を重ね介護計画を作成し現状に則した支援を行えるように努めている	日々の支援の中で気付いた事で利用者各々が出来ると思われる事柄を取り上げ、相談した上でプランに目標として落とし込んでいる。ケアプランと介護日誌を同時に見られるよう工夫して例えは廊下10往復が今日は出来たか？どのようか状態であったか等を確認しケアプランに沿った支援が行なわれている事が良い点として評価したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、入居者様の言葉や職員の対応など主観的にならず客観的に記録出来るよう指導をおこない、その内容の情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている		
		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間や人員が許す限り入居者様の要望などに柔軟に対応できるよう努めている。以前は食事作りは一から職員が行っていたが、調理済みの食材を業者へ頼むことで調理時間の短縮、iPadの導入で介護記録時間の短縮を図り、可能な限り入居者様と接する時間を多くとり安心へつなげている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前はアセスメントを記入し入居後も1人1人の情報を職員と共有して、ご本人に寄り添い、役割を持ち、ご本人のやりがいにつながるよう、職員とともに検討し支援をおこなっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の医師とは、必要に応じて相談を行い医療支援の協力を得ている。またご本人とご家族の意向によりなじみのかかりつけ医の受診を継続出来るよう対応している。受診時には日々のご様子など詳細にご家族に伝えるなど、また必要があれば、担当医に情報提供を行えるよう努めている	入所時医療受診体制を説明している。かかりつけ医には基本家族が同行し、急変などは家族に連絡してから管理者が支援を行っている。月一回の往診医には血液検査などプライマリーケアを中心にみて頂き、変化ある時は家族に情報として連絡している。腹痛・風邪などの時は職員看護師に意見を聞き、医師の判断で受診に繋げている。家族には連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回 入居者様の健康確認を行うほか通常職員が行えないニッパによる爪切りなどを行っている。日々の支援で気が付いた事や変化など伝え、訪問診療と介護職員の連携を図り、より速やかに医療的支援につなげるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人のホームでの様子を報告、入院中は、必要に応じてご家族、看護職、医師 相談員と連携を図っている。退院許可が出た場合にはご家族や各関係機関と連携を図り状況の確認を行った上で速やかに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に関しては契約時に説明を行い、個々の状態に応じてご家族と相談を行っている。必要があれば嘱託医等から意見も交え支援方針検討できるよう努めている	入所時に重要事項説明書にて重度化・終末期での施設の方針を説明し理解を得ている。重度化にはホームで出来る事を細かく説明し、家族の希望や医師の意見を参考に入院などの対応がとられている。終末期についても家族と何度も話し合いの機会を設け、医師の意見などから退所などが行われている。	施設の経歴が長くなるにつけ「看取り希望者」が多くなるのが推察される今、看取り取り体制構築のため医療連携や職員の為のマニュアル作り、事例検討会などその時に向けた態勢づくりを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し職員への周知、応急手当や初期対応など施設内研修(コロナ感染予防対策で書面で)を随時実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害のマニュアルや香取市のハザードマップなどを各フロアや休憩室など配置し職員がいつでも閲覧できるようにしている。、災害毎の地域の避難場所の把握を行うとともに 避難時の交通状況の想定もおこない避難経路の確認も行っている	災害発生時マニュアルは職員の施設までの所要時間を踏まえて役割分担を決め職員の理解を得ている点など非常に良く出来ている。管理者は行政と打ち合わせ避難場所・経路など確認した事を活かして、台風時には全員無事に特養施設へ避難した経験に繋がっている。ハザードマップでの確認や地域との連携にも配慮が行なわれている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のその人らしさに配慮した声掛けをおこなえるように心がけている、職員へは認知症という前に、一人の目上の方(人生の先輩)という事を念頭におき対応するよう努めている	利用者の理解力に合わせて云った言葉を繰り返して共感し、意思の表せない人には表情を見て推し量って思いの理解に努めている。声は大きくない様に注意し「お手伝いさせていただきます」と優しい声掛けでケアと行動で示し、利用者の生活レベルやペースを大事にし希望に添える支援で尊厳に配慮している。居室にはノックと挨拶をし、トイレや入浴時には扉を開けて羞恥心やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分で決めて生活することの大切さを職員が理解し 個々に合わせた声掛けを行っている。食事時の調味料の選択など生活の中の些細な事などから自己決定できるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはだいたい決まっているが、入居者様の自由なペースでおおむね生活できるように、随時ご本人の希望を伺いながら支援ができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の入居者様においてはヘアゴムやスカーフなど装飾品の装着の支援、男性の入居者様には髭剃りの声掛けの支援などその人らしく生活できるよう支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に口腔機能維持の体操を入居者様主導で行っていただいたり、事前に皆さまにメニューを伝えて、季節を感じられ食欲が増進できるよう声掛け会話を楽しむ事、食事中には個々の能力に合わせ必要があれば介助を行っている。食事準備や片付けにおいても入居者様から声をかけて頂き職員と共に行えるよう支援している	外食が出来ない今、イベント食事会の充実を図り七夕・納涼会・敬老会・運動会・紅葉狩り会等多数開催している。一例として、回転寿司としようして買いそろえた寿司の中から注文でお出しして大いに盛り上がった会を演出する等職員は工夫と知恵で利用者の喜びに繋げている。食器には陶器を用い、週に一度のパン食にする等楽しい時間となる様配慮している。又「刻み・とろみ等」食形態の心配りをし、利用者の今ある力を活かして「後片付けや食器拭き等」出来る事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは介護施設に特化した業者に依頼し管理栄養士にお願いしている。また個々の状態にあった食事形態にて提供、食事量の少ない方には可能な限り摂取できるよう声掛けを行ったり、必要があれば食事介助も行っている。水分量は特に制限がない方はおおむね1200mlを摂取をクリアできるよう、声掛けを行い1日の量が把握できるよう記録をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合わせた口腔ケアの支援を行っている。職員はコロナ感染予防対策としてゴーグルを支給し磨き残しの確認や必要があれば介助を行っている。また拒否がある方は時間をおいてケアの声掛けをし衛生保持ができるよう努めている		
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自立排泄ができるように排泄をiPadにて記録をおこない、個々の排泄パターンを把握に活用している。入居者様の能力にあわせた声掛けや誘導を行っている。	ハイセツチエック表を用い、ばた一んを把握し立ち上がる等の動作も見逃さずこえかけしてトイレ誘導し自立排泄に繋がる支援が行なわれている。リハパンから布パンツへ変更出来た例もある。夜間ポータブルトイレ使用者へは提示に声掛けをして清潔に保つ支援が行なわれている。水分摂取や運動の励行で便秘対策が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、水分の記録を活用して1日の水分摂取できるよう個々の嗜好に合わせて飲水の提供する。また排便サインを見逃さずトイレ誘導をおこなう。個々の能力に合わせ、個別で歩行運動をおこなったり、職員の声掛けで毎日のラジオ体操や随時、部分体操など行い便秘予防に努める支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴は行っている。入居者様の体調や身体機能にあわせて ゆっくり入浴ができるよう1人あたり週2~3回程度の入浴支援を行っている。	利用者の体調・気分配慮し柔軟に、週2~3回の入浴を支援している。拒否の時は時間・人を代え声掛けにも工夫した、トイレに行きましよう等から入浴に繋げている。ヒートショック・転倒など安全に配慮し、皮膚や痣の点検を行い軟膏塗布等健康面のチェックも行なっている。入浴時での会話や歌などから趣味・嗜好などの情報収集した事柄から席次変更などに役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣にあわせ、就寝時間は決めず(フロア消灯時間は21時)おおむねご本人の希望で支援ができるようにしている。就寝、起床時にはエアコンなどを活用し適切な温度で安眠出来るよう支援している。夜間の巡回を行い室内温度や安全の確認も行う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬情をフロアにおき、職員がすぐに確認できるようにしている。往診時に薬の変更があった場合は申し送りノートにて職員へ周知、また内服時は職員2名にてWチェック、服薬支援時の変化や症状の変化があれば申し送りにて報告し情報共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様それぞれの能力に合わせた役割を持っていただき、張り合いや喜びがある生活が送れるよう支援をしている。また各行事等や誕生会などでは希望のものを伺いできるかぎり反映できるよう努めている。生活歴から裁縫や漬物づくりなどの役割を持っていただく支援も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染予防対策として外出は自粛している。今年一旦収束が見えた時期に入込みをさせ、近所の桜見学として外出花見レクをおこなった	コロナ禍の為外出がままならず、ホームの生活では座っている時間が長くなり、足のむくみ解消の為廊下を歩く支援に力を入れて行われている。いったん収まった時期を見計らい、人混みを避け花見見物に出かける等、工夫して成るべく外出出来る様務めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりはおこなわず、必要な物やご本人からの希望があれば御家族へ相談確認の上 ホームにて立て替えて購入をしている。請求書に立て替え分として利用料と合わせて請求させていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人へいつでもやりとりができるように支援している。電話使用時は安心してお話ができるよう、居室内にて行っている。また手紙も希望も対応させて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が快適に過ごせるよう清潔を心がけている。また季節を感じ楽しめるようにフロアーには入居者様と共に作成した壁紙や各行事の写真の掲示を行っているほか 窓の外から見えるよう季節の草花を植えている	コロナ禍でレク外出が出来なくなった分、共有空間で楽しんで頂くかを話し合い、一階・二階それぞれでレクを考え、出し物やゲーム等を楽しめるよう変更し継続している。このことは感染症対策としても良い結果に繋がっている。各フロアーには利用者で作成した壁紙や写真で飾り付けし、玄関脇には季節の花を育成して季節感を感じられるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の状況を確認しながら 安全に配慮し 本人の意向出来るだけ尊重し自由に過ごせるよう、支援を行っている。自席は決まっているが、席が空いていればどこでも座ってお話ができるような空間づくりにつとめている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には入居の際は使い慣れた物も持ってきて頂けるようにお伝えしている。居室内はご本人とご家族と相談し安全にも配慮した空間作りに努めている。	入居に際し、持ち込みリストを提示し家族と相談して、自宅の雰囲気になる様使い慣れた物のタンス・テレビ等各々設えてある。温度・湿度に配慮され、出来る事は利用者と一緒に掃除、片付けがされ導線を確保している。衣替えには家族に連絡して行ない毎日の着替えで規律ある生活の維持に繋がっている。夜間巡回ではセンサーに対応しおむつ交換やトイレ誘導で安心・安全を見守っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるよう 手すりを整備して安全が確保し支援が行えるように努めている。居室前にはネームプレート、トイレには「お手洗い」の札をだし入居者様にもわかりやすいように配置している		

## 目標達成計画

作成日：令和 5 年 1 月 4 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		面会方法や対応時間などご家族の要望と一致しない	多くのご家族様にご納得いただけるよう対応をおこなう	面会日時や予約方法などについて説明をおこなう。ご要望があれば可能な限り対応する	1年
2		理念を職員には周知し理解を求めている。各職員個々の動きが多くチームケアを理解して支援を行う事の大切さが各職員へ浸透しきれていない	チームケアの重要性が入居者様のQOL向上につながる事指導し、各職員が理解することができる。	定期的な職員との面談を実施。個人目標の設定し、具体的な目標達成にむけて課題提示、指導を行う	1年
3					
4					
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。